

1. 調査報告概要表

作成日平成 21 年 8月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1090200211
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホーム もくれん
所在地	群馬県高崎市中居町1-8-1 (電話) 027-350-7735
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年6月26日

【情報提供票より】(21 年 6 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7人
利用定員数計	9 人
常勤	5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.2

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6 月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	75 歳	最高	88 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岡本内科クリニック ・ 駒井病院 ・ 中居歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昨年9月に開設されたホームである。管理者と職員は利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、本人本位の支援に取り組んでいる。利用者の自立度が平均的に高く、本人の意向等を把握しながら、家事や趣味等で力を発揮してもらい、楽しみや役割を持って暮らせるよう支援している。毎月、季節の行事やレクリエーション等が行われており、楽しみごとのプログラムが充実している。旬の食材を採り入れた家庭的な料理は、利用者の食欲をそそるであろうと思われた。利用者と職員が明るくゆったりと過ごしているホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の外部評価が初回であり、該当なし。
	自己評価については、管理者と職員3名がまとめ、記載を行っており、全職員で取り組んでいない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的に開催しており、ホームからサービスの状況報告等を行い、議題提案等しながら出席者からの意見や要望を受け、活発に意見交換を行っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。災害時における地域の協力については、近隣4件の家に挨拶に行き、協力依頼を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年4回、「もくれんだより」を発行しており、行事等の日常の様子を報告している。家族等の来訪時には、健康状態や暮らしぶりを伝えている。身体状況等の変化については、随時電話にて連絡をしている。また、家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに努め、出された意見・要望等は職員会議等で話し合い、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人達と散歩時に挨拶を交わしたり、花や野菜を頂くこともある。隣の公園でゲートボールに参加させてもらったり、地元の神社に初詣に出かけ、地域の人達と交流している。保育園に挨拶に行ったり、中学校の体験学習の受け入れを検討している。昨年9月の開設であり、地域活動に参加できるように、区長や区長代理に働きかけを行っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を確認しながら、職員間で検討し、事業所が目指すサービスのあり方を端的に示した独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・事務所に理念を掲示し、職員の目に触れるようにしている。管理者と職員は申し送り時や会議時、日頃のかかわりの中で、お互いに理念を確認しながら、理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達と散歩時に挨拶を交わしたり、花や野菜を頂くこともある。隣の公園でゲートボールに参加させてもらったり、地元の神社に初詣に出かけ、地域の人達と交流している。保育園に挨拶に行ったり、中学校の体験学習の受け入れを検討している。昨年9月の開設であり、これから地域活動に参加できるよう、区長や区長代理に働きかけをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者と職員3名で行っており、全職員で取り組んでいない。	○	評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアの振り返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組んでほしい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。ホームから活動状況報告等を行い、議題提案等しながら出席者からの意見や要望を受け、話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。メンバー(区長)の意見により、近隣4軒の家へ挨拶に行き、災害時の協力依頼を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、介護相談員の受け入れを行っている。法人担当者が市の担当者と報告や相談等を行っており、ホームとしては運営推進会議以外は市の担当者との交流を行っていない。	○	地域密着型サービスでは、介護の現場や利用者の課題解決の為には市の理解や支援等必要なことが多く、直接現場の声を届ける為にも、管理者が法人担当者と共に市に出向き、市の担当者との関係づくりに取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしぶりや健康状態については、家族等の来訪時に伝えており、電話で報告することもある。年4回「もくれんだより」を発行し、家族等に送付している。家族等と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時や運営推進会議時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、意見や苦情等を聞くように努めている。管理者が要望・苦情処理の窓口になっており、意見や要望等は職員会議等で話し合い、運営に反映させている。苦情処理窓口を掲示し、意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合は、利用者・家族等に紹介し、3週間位は管理者や先輩職員が基本的な対応の仕方等を指導しながら共に支援にあたり、スムーズに移行できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われている法人内研修や実践者研修、認知症高齢者の理解と基本的なケア、防火管理者講習等の外部研修には職員が交代で参加している。研修報告を作成し、申し送り時等で発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。昨年の開設であり、今後、連絡協議会主催の大会や交換研修等に参加していく予定である。法人内の複数の同業者と交流する機会を持ち、情報交換等も行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人・家族等と面談を行い、見学時にホームの雰囲気や様子を見てもらいながら、納得して利用できるよう支援している。入居後も、趣味や好きなこと等を本人・家族等から聴き、話題やレクリエーション等に取り入れている。家族等に電話をしてもらったり、外出等利用者の希望に応じながら、徐々に環境に馴染めるよう支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活場面で、利用者から昔の思い出話や趣味の話の聴いたり、おはき・饅頭の作り方等教わる事も多い。本人を介護される一方の立場におかず、共に過ごし支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動や何気ない言葉・表情等から本人の希望や意向の把握を行っている。また、家族等から情報を聴き取り、本人本位の把握ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らせるよう、アセスメントを基に、本人・家族等から意向確認を行い、毎日の申し送り時や月1回のカンファレンス等で職員全員で話し合い、それぞれの気づきや意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、基本的に3ヶ月に1度と状態の変化に応じて、現状に即した新たな計画を作成しているとの事であるが、モニタリングの記載が確認できない。	○	個別の介護計画に基づいた統一的なケアの実践及び現状に即した介護計画であるか等の確認の為、また、本人・家族等の意向の再確認等の観点から、少なくとも月に1度はモニタリングを行い、職員間で介護計画の遂行状況、効果等を評価し、現状に即した介護計画の作成を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の要望等に応じて、買物支援が行われており、個々の必要な支援には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族等の意向を確認しており、希望するかかりつけ医となっている。月2回協力医に往診してもらい、指導を受けている。訪問看護師が週1回来訪しており、健康チェックを行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成しており、入居時に本人・家族等に事業所が対応しうる最大のケアについて説明し、同意を得ている。本人・家族等ならびに主治医、訪問看護師等と話し合い、その時々々の家族等の意向を確認しながら、全員で方針を共有できるよう取り組み始めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉づかいや対応をしないように、職員間で話し合いをしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態やその時の気持ちを大切にしながら、散歩・入浴・テレビ鑑賞・食事の時間・役割当番・レクリエーション等、その人らしく快適に暮らせるよう希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、野菜の下ごしらえ・テーブル拭き・お茶入れ・食器洗い等を職員と共に行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう支援している。利用者の好みのメニューや旬のものを採り入れ、献立を作成している。誕生日には、本人希望の祝膳を用意している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週4回(月・火・木・金)午後から入浴支援を行っている。また、他の曜日でも希望があれば入浴できるよう対応しており、曜日や時間帯の変更も検討している。入浴拒否にならないよう言葉かけ等の工夫をしながら、楽しく入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴等を把握し、洗濯物(干し・たたみ)・床清掃・食器洗い・トイレ掃除等、役割当番を決め、日常的に楽しみながら継続できるよう支援している。合唱・ぬり絵・習字・ちぎり絵・植木の手入れ・季節の行事や花見・ドライブ・外食等で楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	テラスでの日向ぼっこ、花の栽培や草むしり、天候が良ければ散歩に出かける等日常的な外気浴を心掛けている。買物・季節の花見・ドライブ等で気分転換ができるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出願望の強い利用者がある為、また家族等の要望もあり、日中、玄関に鍵をかけている。鍵をかけないケアの実践について、運営推進会議や職員会議で話し合いをしている。	○	自分の行動をコントロールされる理由や規則を理解することが難しい利用者にとって、鍵をかけられ、自由に外に出られないことによる心理的な抑圧感や不安は大きい。職員の連携で、出て行く気配を見落とさない見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態像を把握しながら、鍵をかけずに自由な暮らしを支援して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成21年4月、消防署の協力を得て、避難誘導訓練、消火訓練を実施している。災害時の協力を依頼する為、地域の人達に挨拶に行き、了解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた家庭料理を提供している。苦手な料理は調理法を変えたり、他の食材に変更している。食事摂取量を記録し、職員は情報を共有しながら支援しているが、水分の摂取状況については、個別の記録はなされていない。週1回、体重測定を行っている。	○	旬の食材を採り入れたり、苦手な料理は変更して提供する等、食事内容への配慮はなされているが、脱水予防等の観点から食事摂取量と同様に水分摂取量についても、1日を通してチェックを行い、個別の健康管理等に繋げていってほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口に、花の寄せ植えをしている。ホールは明るく家庭的で、季節の花を飾り、テレビや大きなソファ、観葉植物等が設置してある。壁には役割表や1週間の献立表が掲示してある。畳のスペースもあり、居心地良く過ごせるような工夫がみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、整理箆筒、衣装かけ、時計、椅子、カレンダー、縫いぐるみ等、馴染みのあるものや好みのものが持ち込まれており、本人が安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		